

市民憲章 推進大会

地域振興への長年の寄与をたたえ

2個人・9団体を表彰

21年度一関市民憲章推進大会(一関市民憲章推進協議会主催)は10月25日、同協議会関係者や市民ら約250人が出席し、新築落成した東山地域交流センターで行われました。

大会では、市民憲章唱和、市民歌斉唱に続き、同協議会の懸田等会長が「市民憲章は、社会の状況に適応しつつも揺るぎない市民のありようを示している。今後とも皆さんの理解の下に推進に努めていきたい」とあいさつ。続いて、率先して地域社会の振興に尽力された2個人、9団体に対する同協議会表彰と、



協議会表彰を受けられる皆さん

受賞者(敬称略)	地域	事績
秋元 己由	一関	真滝血圧友会の会長として32年間にわたり地域の健康づくりを先導。
菅原 平	大東	内野小学校児童の「たたら製鉄」実習を指導し、青少年の健全育成、郷土の歴史・文化の伝承に尽力。
老松活性化同志会	花泉	地域の歴史や文化・伝統を基にした地域づくり活動を21年間にわたり実践。
川崎生活改善グループ連絡研究会	川崎	地元産大豆を使用した「赤柴豆腐」、幻のサトイモ「ツルクビ」による農村ならではの地域づくりを実践。
県立千厩高等学校インターアクトクラブ	千厩	J R千厩駅および駅前の花壇を15年以上にわたり整備し、地域の環境美化活動推進に多大な貢献。
千厩町柔道スポーツ少年団	千厩	設立以来23年、競技の普及と競技力の向上に努力しながら福祉施設の清掃活動などで青少年の健全育成に貢献。
第19区自治会	室根	平成12年から市内外の小学校で鮭の育て方の体験学習機会を提供するなど河川の清流化、環境保護PRに尽力。
ふるさと花泉会	花泉	首都圏在住の花泉出身者の会。郷土の発展のため少年野球教室開催や都内での観光物産展の支援に貢献。
室根・吉川交流協会	室根	設立以来10年、相互に特産品の展示販売会やスポーツ交流を実施し、人的交流や地域の活性化に貢献。
読みがたりグループ「たんぼぼ」	大東	平成8年の結成以来、図書館ボランティアや紙芝居などを通じて、子どもや親の読書普及活動に尽力。
老人クラブ長久会	東山	昭和37年に発足。以来、J R柴宿駅の清掃活動、花壇整備を継続し、地域の環境美化に多大な貢献。

本年度花いっぱいコンクルの表彰(入賞団体などは10月1日号で既報のとおり)が行われました。

大会の後半では、老松活性化同志会(花泉)と旭町自治会(大東)による事例発表が行われ、出席者はそれぞれの特色ある活動の成果に、熱心に耳を傾けていました。同協議会表彰受賞者は、左表のとおり。

市民の皆さまへ

このたび、本市職員が不正な事務を行っていたことから、懲戒免職処分いたしました。関係機関をはじめ市民の皆さまに多大なご迷惑をおかけいたしましたことに対し、

心よりおわび申し上げます。今後、再びこのようなことが起こることがないように市政に取り組みでまいります。

市長 勝部 修

企業立地

フェニックス エンジニアリングが立地

市は11月7日、㈱フェニックス エンジニアリング(本社埼玉県三芳町、菊島国治社長)と立地協定調印式を行いました。

協定調印後、勝部市長は、「一関に立地して良かったと思っただけでなく、さまざまな面でバックアップしていきたい」とあいさつ。菊島社長は、「一関は熱意を持った技術者が多い。新たな事業展開に向けた一歩。これまでと違ったビジネスが生まれるよう期待している」と意欲を示しました。

音響機器や通信機器の商品開発・設計などを行う同社。今回、真柴第二工業団地内にある市所有の貸工場に一関事業所を開設



立地協定に調印後握手を交わす勝部市長(中央右)と菊島社長(中央左)。右端は菅原市議会議長

し、携帯電話などの試作評価業務を行います。22年1月に本格操業する予定で、従業員はすべて市内など地元で採用予定。操業開始時は10人、2年後には20人体制が見込まれています。

協働推進 アクションプラン

準備会議の結果報告

協働推進アクションプラン検討委員会(三浦幹夫座長ほか委員21人)は11月2日、勝部市長に「アクションプラン(行動計画)策定のポイントとなる事項」の検討結果を報告しました。

同委員会は、市長の呼びかけに応じて、自主的で主体的に参加した市民の皆さんと市の職員で構成。同プランの「策定のポイントとなる事項を検討する準備会議」と「具体的に策定作業に取り組み策定会議」の二段階で検討を進めているものです。



アクションプランのポイントを検討した準備会議

次の策定会議では、▼協働の理念・指針：市民の定義とアクションプランの位置づけ▼共

策定会議の検討項目

本年度3回目の「ふる里就職ガイダンス」は11月12日、ベリーノホテル一関で行われました。

地元企業13社と学生や一般求職者など74人が参加。開催にあたり勝部市長は「企業、求職活動中の皆さんに多数ご参加いただきました。貴重な機会なので希望する職種以外の企業の話も積極的に聞いてください」とあいさつしました。

前段の準備会議は、去る6月30日から8回の会議を開催。コーディネーター(まとめ役)に櫻井常矢高崎経済大学准教授、ファシリテーター(発言の促進役)に小野仁志いちのせき市民活動センター代表ら4人を依頼し検討してきたものです。

今回の報告は、準備会議の結果として、市民と行政の関係をめぐる課題を整理し、協働の基盤となるべき組織などの魅力と課題を指摘。その上で、「自分たちの地域は自分たちで課題を見つけ、解決していかねばならない」とし、多くの市民の参加による検討を行うため、検討委員を65人に増やした次の策定会議に引き継ぎ、具体的な策定作業を進めたいとしています。

具体策は65人で検討へ

前段の準備会議は、去る6月30日から8回の会議を開催。コーディネーター(まとめ役)に櫻井常矢高崎経済大学准教授、ファシリテーター(発言の促進役)に小野仁志いちのせき市民活動センター代表ら4人を依頼し検討してきたものです。

今回の報告は、準備会議の結果として、市民と行政の関係をめぐる課題を整理し、協働の基盤となるべき組織などの魅力と課題を指摘。その上で、「自分たちの地域は自分たちで課題を見つけ、解決していかねばならない」とし、多くの市民の参加による検討を行うため、検討委員を65人に増やした次の策定会議に引き継ぎ、具体的な策定作業を進めたいとしています。

ようにし、22年3月31日までに結果を示したいとしています。

プロセスを明らかに

報告を受けた勝部市長は「人口減少社会においては、定着している人材の確保が必要。それを進めるためには、行政だけでなく、民間だけでもない、協働の取り組みが必要」と語り、次の

委員会に向けては、「期限を決めていることは良いこと。しかし、決して急がないで議論してほしい。組織で検討する時は、次の会議をいつやるのかを冒頭で決めて、検討のプロセスを明らかにしながら進めることが大切」とアドバイスしました。三浦座長は、「協働は連携が重要。結果として、どのような活動をして『楽しかった』となるような連携が大切」と今後の抱負を語りました。

◎問い合わせ先
本庁協働推進課協働推進係

地元企業13社と74人が参加

ふる里就職ガイダンス

本年度3回目の「ふる里就職ガイダンス」は11月12日、ベリーノホテル一関で行われました。

地元企業13社と学生や一般求職者など74人が参加。開催にあたり勝部市長は「企業、求職活動中の皆さんに多数ご参加いただきました。貴重な機会なので希望する職種以外の企業の話も積極的に聞いてください」とあいさつしました。

採用を予定している測量会社の社長は「一関地域に根ざして働いてくれる人材を募集している。地元企業として頑張りたい」と人材確保の意欲を見せていました。来春、専門学校卒業予定の20代の男性は「地元企業で営業か販売の仕事に就きたいが、厳しい状況と感想を述べながらも、積極的に各企業の話聞いていました。



企業の説明を聞く求職者の皆さん